



金子さんが手にしているのは貴重な68年式Bタイプ別期用のホイールとホイールカバー。強度不足のため、すぐに仕様変更されたので数が少ないのだ。ホイールに付いているカバーはホンダN600輸出用のもの。

金子良治さん(45歳・埼玉県川口市)

ハマると深い リトルホンダ地獄

2、4輪問わず、なぜかホンダ車というのは収集癖をくすぐる対象のようだ。絶対的なサイズの小ささもあるのだろうが、それ以上にオーナーを魅了するのは創始者本田宗一郎の情熱と研究心から生まれたということが収集心をくすぐる。では、ホンダN360という軽自動車にハマるとどうなるか、紹介しよう。

撮影=谷井 功
photographed by YATSUI ISAO

男の性[♂]ともいえる収集癖。機械モノやおもちゃにフィギュア、本から鉄道モノまで、その対象は幅広い。こうした性癖は改善しようにも手のつけようがなく、たちの悪いことにいいものを手に入れるとより進行してしまうという側面も持つ。だから、コレクターやマニアと呼ばれる段階に突入してしまったなら、改善することなど深く諦めて、より深みに潜行していくしか道は残されていないのだ。

特に2、4輪にハマってしまったなら、そこからの脱出はサンフランシスコのアルカトラズの監獄級と、極めて困難。だからたいいていの場合、皆さん日々の修練と情報網の拡大に余念がない。ここに紹介する金子良治さんもそんな1人だ。だが、金子さんの場合、やや事情が複雑。ご存じの向きには説明の必要もないだろうが、金子さんはホンダN360エンジンヨイクラブという、日本最大級のホンダN360のクラブの代表を務めているのだ。

だから、好むと好まざるにかかわらず、車が集まってくるのが多い。この趣味(ホンダN360)を始めてから今まで、金子さんの元を通過していった車たちの数は、数十台に上るとのことだ。

「キチンと登録して車検を通して所有したのは4台ほどですが、バラしたり一時的に置い



①ガレージの奥には雑多なパーツ群に交じって2台のホンダN360が並ぶ。いずれも金子さんがこだわるNIIとLNIで、右の車は手持ちのNIIIレーシングからエンジンを移植してレーシングカーに仕上げる予定。
②だいぶ整理したと金子さんはいうが、それでも所有する車のためにエンジンのストックは欠かせない。この3基は比較的良好な状態で保存されているが、これ以外にも数基が散乱している。



- ③68年式ホンダN360TS。この純正色ライトスカーレットの車はクラブの初代会長から譲ってもらったもの。車台番号N360-12222804でN I でも後期のモデルだ。
- ④バンパーに付くオーバーライダーや雨どいのルーフレールモールは、純正オプションで用意されていたもの。リアのスリットカバーはTSだけに装着されるものだ。
- ⑤エンジンはツインキャブで高回転までよく回る。スペアタイヤカバーはクラブで製作したオリジナルのもの。
- ⑥オリジナル状態をよく保っているインテリア。インパネ中央の時計はオプションだったのだが、装着されているのは金子さんが以前ニューイヤーミーティングで見つけたホンダ1300用のもの。文字盤が違うだけでサイズはピッタリなのだそう。
- ⑦シートもオリジナルのまま。ステップのカバーやドア内張りのアームレストなども本来は純正オプションのもの。シフトノブは純正のものに塗装をして光沢を出している。
- ⑧純正スチールのホイールにTS純正のホイールキャップ。このあたりは金子さんのこだわりである。さらに当時のトレッドパターンの雰囲気に近いということで装着したタイヤは、悲しいかなバン用ラジアル。



NOSTALGIC CAR ENTHUSIAST

いたというものも含めれば数え切れないんですよ。1人だけ欲しい車があったとしても、その所有者と交渉すると、「置いてある車数台まとめて持って行ってくれ」とか、「頼むから持って行ってくれ」とか、そんな話が多いんですよ。」

そんな金子さんとホンダN360とのなれそめは、免許を取ってすぐのころにさかのぼる。実家が管む金属製造工場には、金子さんの叔父も働いていた。その叔父が所有する初代シビックが代替わりとなり、初心者の子金子さんに回ってきた。それでホンダ車の魅力に目覚めた金子さんは、実用車とは別に趣味の車として寒冷のホンダZを探し始める。

「偶然にも上級グレードのGSが手に入りまして。その車でいろいろ楽しんでいたら、愛知県で開催された0・36オールホンダミーティングというイベントに参加したんです。そのとき、ちよつと……」

そのイベントは、金子さんのその後の人生を狂わせた。ホンダZという趣味がホンダN360に切り替わってしまったのだ。イベント会場に集まった200台あまりのホンダN360。その姿にすっかり参ってしまったのである。

「それから探し始めて、Zを買った3年後にはNも買っていました。それはNIIのSタイプで、その後4年あまりはZとともに趣味車が2台ある態勢でした。で、Nを買った翌年にはクラブに加入したんです」

当時は、まだ数名の小さなクラブだったが、あれよあれよという間に会員を増大。それと比例するように、金子さんのホンダNの数も増殖していくこととなる。そんな折、クラブの初代代表がカナダに移住することとなり、手持ちのホンダN Iを手放すという。知らない人に売ると知ってる人がいい、ついでに金子さんどうか、ということでも、今も所有するライトスカーレットのホンダN Iが金子さんのガレージに住み着いた。

これとは別に、初代シビックから始まった金子さんの足車は、やはりというかホンダ一辺倒。その後はスーパー・シビックのカントリー、クイント・インテグラとなり、そのころ結婚。奥さんが嫁入り道具でコンチエルトを連れてくると、クイント・インテグラは子供の誕生とともにアクティへ。それが進化し



- ① 67年式ホンダN360。車台番号N360-1044582というN1でも非常に初期のモデル。まだグレードがないところで通称Dタイプと呼ばれる。
- ② 純正色のアドリアブルーの塗装が非常にいい雰囲気を演出している。この車もわかってクラブ員から頼まれて所有することになったもの。金子さんの手元に来てからひととおり手が入った状態だ。
- ③ N1初期の特徴であるストラット頂部の1点支持と、エンジンの振れ止め用ステー。ジャッキの奥がストラット頂部でのモデルでは、その周りに3点ほど支持部が追加される。また、そこから伸びている金属の棒が振れ止め用ステー。
- ④ N1初期のモデルだが、やはりN0とはヘッドカバーの形状が違う。もちろんキャブはシングルのまま実用域で使い勝手のよい特性を発揮する。
- ⑤ インパネ回りは適度にモディファイされている。ロータス26R用小径ステアリングを装着し、本来スピードメーターだけだったところにタコメーターを追加している。
- ⑥ 運転席のみコブラのフルバケットシートを装着しているが、もちろんオリジナルのシートも保存している。アドリアブルーの外装色とクリーム色の内装色とのコントラストが冴える。
- ⑦ 同じN1でもグレード、製造年月によってホイールキャブの意匠は違う。もちろんこれもオリジナルのままだ。トレッドパターンのこだわりでこの車もバン用タイヤを装着している。



て、今では奥さん用がビガリ、金子さん用がステップワゴンとなっている。

余談だが、奥さんの嫁入り道具がコンチエルトという時点で気づいた読者もいるだろうが、奥さん方にもホンダ・マニアがいた。奥さんのお見さんが、なんとホンダSを所有するマニア。蛇の道はへび、ではないが、やはり同好の士は呼び合うものだろうか？

さて、増殖をたどったクラブと金子さんの所有車たち。いつの間にかクラブの代表になっていた金子さんは、全国各地にホンダN360収集脚にも出た。クラブ員のためという大義名分があれば怖いものはない。専用トラックで不要となったホンダN360たちを引き取り、自宅で解体するという日が続く。そうして集まったパーツは使えるものは生かされ、そうでないものも倉庫ではこりととにも保管される。

ここまで来ると金子さんの自宅とは、どんなところなのか気になってくる。これも知る人ぞ知るだが、ホンダN360エンジンヨイクラブの事務局の住所には「日本金属鑄造工業」とある。では、パーツも作っている人なのか？ という疑問も当然生じる。だが、さにあらず。実家の工場はすでに操業を止め、広大な敷地を工場のまま貸しているのだ。

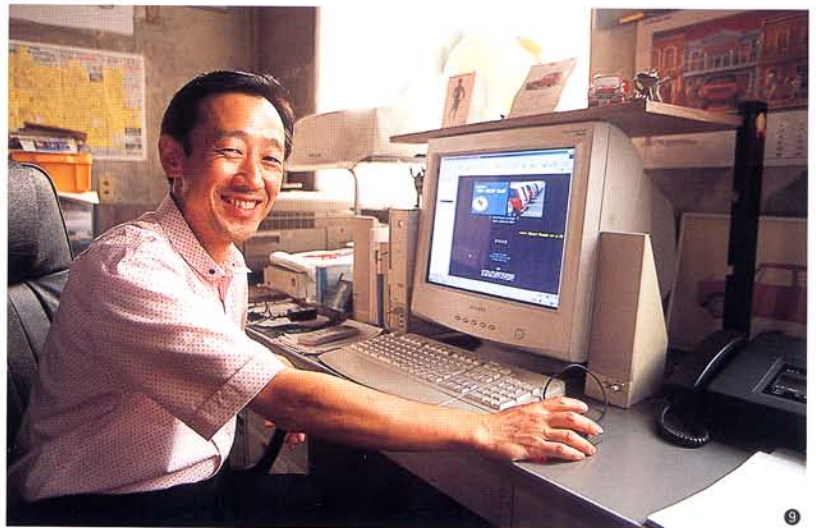
だが、バブル以降の工場群の乱立とそれによる賃料の低下で、貸し工場がすべて埋まらない。だから、空いている場所を生かしてクラブの会合の場としたり、部品をはぎ取った車を置いたりしているわけなのだ。その工場の一番隅に、金子さんのプライベートガレージ



⑧金子さんが収集しているホンダN360のミニカーたち。なかにはレーシング仕様もあるが、これを製作した後、実際にミニカーに忠実に実車のレーシングカーを作ってしまったようだ。左奥の電話機は、最近金子さんがインターネットオークションで購入したもの。

⑨ホンダN360エンジョイクラブではホームページ(<http://www.n360-enjoy.org>)も公開中。作成するのはメインが金子さんで、最近始めたホンダN360クロニクルなどのマニアックなページは別のクラブ員が担当している。

⑩貴重なサービスマニュアルやパーツリストたち。もっと程度の良いものも持っているのだが、ホームページ作成のためクラブ員のところに預けてある。



⑪68年式ホンダN360Mタイプ。純正色のオーロラグリーンに塗られたこのボディは、金子さんがレストアするため6年ほど前に塗装し直したのだが、一向に作業が進んでいないのだそうだ。

⑫このNIIIレーシングカーはエンジンやパーツが欲しくて購入した。ガレージ奥に保管しているNIIに移植する予定なのだが、それもまだ手つかずのまま。オーロラグリーンを仕上げるのが先の予定だから、まだ数年はこのままか？

⑬これがNIIIのエンジン。500ccまでボアアップしているが、今はわからないようだ。それでもパーツが少ない車だけにいちから作るよりは、これを直して載せるほうが合理的。



てくるはずだ。

「買ったときは、やっぱり庶民の車だし安いです。からね。だから普通の人はそこからステップアップしようとする。でも本当は完結している車なんです。だから私たちはNが本当に好きだし、これからもNともいにあるでしょう。」
 「ただ所有するだけではなく、これからも走らせて楽しむという姿勢。金子さんの姿勢とガレージからは、ホンダN360エンジョイクラブというクラブの本質がたくましく見えてくるはずだ。」

ジがある。とはいえ、その一角にもクラブ所有のパーツが散乱しているので、完全なプライベート用でもないのだが。
 「これでも、一時よりはだいぶ処分したんですよ。エンジンがゴロゴロ、外板がゴロゴロといった感じだったので、必要なもの以外は置かないようにしました」
 やはり、取集癖という病に冒されると、上り詰めるだけ上らないと落ちて着けないということか。しかし、一度上り切ってしまうと、本当に必要なものとの区別も付けやすくなるのだらう。今、金子さんのガレージには、将来必要となるのだらうものだけが置かれている。それでも普通に見れば膨大な量だ。そこから感じられるのは、もうリトルホンダ地獄から金子さんは抜け出さないうらうということ。一生涯を埋める覚悟がガレージを見ただけで感じられる。

④ あなたなあーら、どうする？



これまではぎ取ったのは、なにも外板パーツばかりではない。ステアリングギアやなんだかわからないものまで、見事な数がストックされている。なかでも用途不明なのが棚の上段にあるフロントマスク。やはりオブジェか？

なぜにルーフだけ切り取つてあるのか？それはこれがサンーフ仕様のルーフだから。屋根に穴を開けて作れはいんじゃないか、と思つてしまつたが、純正ではキチンと開口部に沿つて補強が入つていふのだ！



⑤ 秘密の屋根裏部屋



複数ある空き工場のなかでも、資材が散乱する奥の壁になにやらハンコが付いている。そこを上ると隠れ家的屋根裏部屋が！そこには隠れるように貴重な新品パーツが潜んでいた。

⑥ 国破れて山河あり



パーツをはぎ取るだけのはぎ取った後には、このようなドンガラが残るのみ……。これまで何台の車がドンガラ姿をさらしてきたのだろうか？役目を終えたボディは解体を待つのみ、合掌。

日本金属鑄造工業(内の物置き)潜入記

① 潜入開始！



現在貸し工場となっている金子さんの会社、日本金属鑄造工業には使われていない場所が複数ある。そのひとつに潜入してパーツを探る金子さん。

② お宝発見！



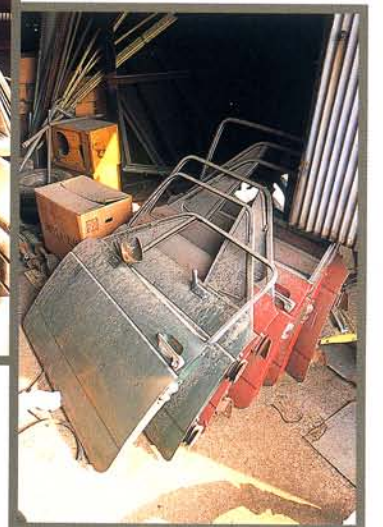
冒頭の写真でも金子さんが手にしていた68年式Sタイプ初期用ホイールを加工して、ワイド仕様にしたものを発見！金子さんはこのホイールを再度分解してオリジナルの幅に戻そうかと計画中。

NOSTALGIC CAR
ENTHUSIAST

③ はぎ取りの成果



まだまだあったドアたち。一体この後、これらのドアが使われることはあるのだろうか？



これまで数十台のNをばらし、パーツをはぎ取ってきた金子さんの収集成果が、これらの外板パーツたちだ。バンパーやリアゲート、ドアなど補修用パーツには事欠かない。